2026 年 11 月 17 日
シスメックス株式会社

【発表概要】

第 45 回日本認知症学会学術集会 第 41 回日本老年精神医学会 合同大会

全自動免疫測定装置を用いた血漿 p tau205 測定系の改良および性能評価

発表者	宮崎広海[1],土井 菜々子[1]、森 雅志[1]、今井 湧太[2]、田中 葵[2]、石木 健吾[2]、藤田 真由[2]、三浦 雅央[2]、島 佳史[1] [1] シスメックス株式会社 中央研究所 [2] シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部
発表概要	**背景** アルツハイマー型認知症では、タウ蛋白の異常リン酸化に伴う神経細胞障害が病態形成に重要な役割を果たすことが知られている。中でも 205 番目のトレオニンがリン酸化されたタウ（p-tau205）は、神経原線維変化を反映するバイオマーカーとして注目されている。我々はこれまでに、免疫沈降-質量分析法と高い相関を有する血漿 p-tau205 測定系を開発してきた。本研究では、測定系の頑健性向上を目的に試薬組成を最適化し、全自動免疫測定系としての分析性能を多面的に評価した。 **方法** 全自動測定装置 HISCL™-5000（シスメックス）に適用可能な p-tau205 測定試薬のプロトタイプを作製し、市販ヒト検体を用いて日差再現性、測定機器間差、干渉物質および抗凝固剤の影響などについて検討した。 **結果** 日差再現性および測定機器間差はいずれも CV10%未満と良好であった。また、6 種類の干渉物質および 4 種類の抗凝固剤による影響はいずれも限定的であり、本測定系が安定した分析性能を有することが確認された。 **結論** 本検討により、HISCL を用いた全自動測定による血漿 p-tau205 測定の実現可能性と分析性能の頑健性が示された。今後は臨床検体を用いた検証や他の p-tau 種との比較を通じて、血漿 p-tau205 の臨床的位置づけの明確化が期待される。
セッション	診断-8 / P489

シスメックス株式会社
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073
Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524